

書評

敦賀市史編さん委員会

敦賀市史研究一号

守隨の敦賀出張所を指摘し、敦賀出張所の成立展開と極印料の納付の在り方や秤改めなどを通して、江戸秤座と敦賀出張所との関係を明確にした貴重な労作であるといえる。

敦賀市史編さん委員会では、『敦賀市史研究』(1)を刊行したが、まず論文では、小葉田淳(京都大学名誉教授・敦賀市史監修者)「近世後期敦賀の廻船業——高嶋屋(荻原)久兵衛家の場合——」が、一、高嶋屋徳和の遺誠と同家の財力二、所有の廻船三、大坂、瀬戸内の船荷取引四、高嶋屋の蝦夷地取引五、南部・津軽領の港と高嶋屋廻船六、酒田・加茂・新潟および加賀藩諸港と高嶋屋七、小浜・敦賀地方の経済関係の各事項につき、精密な内容分析を行い、高嶋家の廻船業の具体的動向およびその全体像を構築したことは、日本海海運史の研究視角からも、きわめて注目すべき業績として高く評価したい。また橋詰久幸(同市史編さん委員)「江戸秤座守隨敦賀出張所」は、若狭国と越前国敦賀郡を支配した江戸秤座

次に浅井善太郎氏(市史編さん委員長)は『狂歌師「柿谷半月」の一資料』につき、藤井讓治氏(神戸大学助教授・市史編集主任)が『住友家所蔵の田中清六関係文書』について、それぞれ入念な「史料紹介」を行っている。さらに「文化財案内」(1)として、国宝・朝鮮鐘(常宮神社)が紹介され、最後に高城一郎氏(敦賀市教委社会教育課長)が「敦賀市立歴史民俗資料館と一年の歩み」を、岡田孝雄氏(市史編さん委員)が「敦賀市史の刊行と成人大学郷土史セミナー」の概要を述べている。

〔以上の各書紹介は三上記〕